

平成 26 年度 JICA 研修 コミュニティ防災(A)

- JICA Community Based Disaster Risk Management(A) -FY2014



研修最終日、閉講式にて



研 修 期 間：平成 26 年 7 月 1 日～8 月 8 日 (6 週間)

研 修 場 所：神戸市/岩手県/宮城県/東京都/高知県

研 修 内 容：参加研修員の自国のコミュニティにおける、自然災害に対する防災活動推進方法の習得に関する講義/視察

参加研修員：13ヶ国 18名 (インド2、チリ1、フィジー1、キリバス1、マケドニア1、アルゼンチン1、コロンビア2、セントルシア1、ジャマイカ1、モルドバ1、カザフスタン3、グレナダ1、ブラジル2)

当財団では、独立行政法人国際協力機構(JICA)からの委託を受け、神戸市消防局の協力の下、「コミュニティ防災(A)」研修を実施しました。自国で住民主体の防災活動を推進する立場にある行政官などを13ヶ国から迎え、6週間の研修を行いました。

本研修は、自然災害に対する防災の重要性、中でも住民主体の自主防災組織を通じた地域コミュニティの防災力向上について学ぶ事を目的としています。研修では、神戸における取組みの代表的な例として「防災福祉コミュニティ¹」を取り上げています。防災福祉コミュニティでは、メンバーによる日頃の地域活動で培われた団結力や訓練などで学んだ防災知識を災害時に活用できることを目指しています。災害緊急時には行政による「公助」を待つのではなく、自らの命を守る「自助」、住民が互いに助け合いながら自分達の地域の安全を守るという「共助」が何よりも重要となるからです。

研修員は、「防災福祉コミュニティ」を中心に、神戸市が取り組む市民向けの防災に関する普及の取組みを学びました。また、市外では、2011年に東日本大震災で津波の被害を受けた岩手県・宮城県と、今後発生するとされている東海、東南海、南海地震の津波に備えた取組みを行う高知県を訪問しました。そして研修最終日には、講義・視察を通じて考案した自国のコミュニティ防災の方法、市民への普及促進策についての行動計画の発表を行いました。

¹:防災福祉コミュニティは阪神・淡路大震災の教訓をもとに生まれた神戸市独自の防災取組みであり、小学校区ごとに結成された自主防災組織です。安全で(防災)安心して(福祉)暮らせるまちづくりをめざし、防災活動や福祉活動に取り組んでいます。防コミ(BOKOMI)と通称されています。

～研修を振り返って～

6週間の研修で、研修員たちは神戸・東北・東京・高知と日本各地を視察し、神戸で起こった阪神・淡路大震災に関する講義や、4年前に発生した東日本大震災に関する講義・視察などをはじめ、防災に関する取り組みについて学びました。また、近い将来必ず起こるといわれている東海・東南海・南海地震（「南海トラフ巨大地震」とも呼ばれています）の被害を最小限に抑えるための神戸市をはじめ、日本各地で行われている様々な防災対策についても学びました。



地震体験車「ゆれるん」体験の様子(JICA 関西にて)



鶴甲防災福祉コミュニティでの防災訓練の様子

研修の初盤には、神戸市が所有している地震の揺れを体験する地震体験車「ゆれるん」に乗り、阪神大震災や東日本大震災の際と同じ震度の揺れを体験しました。実際に揺れを体験する事で、地震の怖さを知ることができ、各自が防災に対する意識を高める機会となりました。

それから研修員たちは、防災福祉コミュニティがどのように誕生したのかというお話を、設立に関わった当時の神戸市消防局長に伺ったり、防災福祉コミュニティの実施している訓練に参加し、火を消すための「バケツリレー」や、水消火器の使い方の訓練などを体験しながら、防災福祉コミュニティのメンバー（住民）が中心となって防災訓練に取り組んでいる様子を見ることができました。研修員たちは、住民が参加している防災訓練で、住民の方々とふれあいながらとても楽しく参加していました。

楽しく防災を学ぶという面では、ポートアイランドにある神戸学院大学に伺い、防災・社会貢献ユニットの先生・学生に講義をいただきました。神戸学院大学では、「防災ダック」という子供向けに作られたカードを使って、地震のときには頭を守る、津波のときには高い所に逃げる、火事の時には煙を吸わないようにハンカチで口をふさぐなどの動作を実際にとりながら、1対1でどちらが素早く反応し身を守る行動をとれるかというトーナメント形式のゲームをしながら防災教育の方法を学びました。また、三宮フラワーロード沿い、神戸税関の向かいのデザインクリエイティブセンター神戸に事務所を置かれているNPO法人プラスアーツの活動についてお話を伺いました。同法人では、子供・家族を対象に、災害の際に必要な知識などを身につけてもらう



高羽地区(灘区)の訓練にてバケツリレーに参加



神戸学院大学で「防災ダック」を体験

ため、楽しみながら防災を学んでもらうために作られた「イザ！カエルキャラバン！」というプロジェクトがあります。研修員たちはそのプロジェクトで実際に使われている道具を使いながら防災教育について学びました。

研修後半では、東日本大震災で大きな被害を受けた岩手県、宮城県の各地を視察し、被災した住民の方からお話を伺ったり、被害を受けた建物などを見せて頂きました。中でも、大きな津波被害を受けた岩手県宮古市田老町では、「日本の万里の長城」と呼ばれた海拔 10m の高さを持つ防潮堤ながら、その高さの倍以上もあったともいわれている津波により一部倒壊するという被害を受けた防潮堤の実際の場所で、当時の状況やその後の復興の状況などをお伺いし、防潮堤があったとしても、安心してはいけないということや、地震が発生したら津波が起こるから早く高台に逃げるといった意識を住民一人ひとりが持つことの大切さにあらためて気づかされました。

こうして講義・視察で聞いた事・見た事をもとに、研修最終日には、18名の研修員全員が、行動計画（アクションプラン）を作成し、日本で学んだことを自国でどのように活用し、実践していくかについて、発表してくれました。世界中で自然災害が多発する現在、研修員がこの研修で得た知識・経験を今後、各々の国におけるコミュニティ防災推進活動に活かし、一人でも多くの人々が災害から守られることを期待しています。



「イザ！カエルキャラバン！」の内容を実際に体験



「日本の万里の長城」と呼ばれた防潮堤のある場所で住民の話をお伺いした（岩手県宮古市田老町にて）

研修担当：丹後 千里

委託元機関：独立行政法人国際協力機構(JICA)関西国際センター

研修指導機関：神戸市消防局予防部予防課

講義/視察先：

気象庁、ガジャマダ大学(インドネシア)/ひょうご震災記念 21 世紀研究機構/神戸学院大学/ 兵庫県立舞子高等学校 /名谷ふれあいのまちづくり協議会/垂水消防団・名谷分団/市民防災総合センター/高知県庁/高知市役所/高知県幡多郡黒潮町役場/神戸市消防局/神戸市教育委員会/
神戸市危機管理室/(公財)神戸都市問題研究所/魚崎町防災福祉コミュニティ/若鷹市民消火隊/
ひだまり公園市民消火隊/高羽防災福祉協議会/鶴甲防災福祉コミュニティ/宮古市役所/
(社)南三陸町観光協会/(社)宮古観光協会/復幸マルシェ/兵庫県立大学/アジア防災センター/人と防災未来センター/SEEDS Asia/NPO 法人プラス・アーツ/FM わいわい/北淡震災記念公園/
地すべり資料館(仁川百合野町)

【順不同、敬称略】



～研修員の声『神戸を訪れて(要約)』～Participant's Voice『VISIT TO KOBE』～



国名：ブラジル
名前：Ms. DA SILVA Barbara Santos
所属：ミナスジェライス市
市民防衛統括部 管理促進担当官

It is a great honor to participate in this extraordinary training with JICA, KIC and the Kobe City Fire Bureau. The entire course has been very well organized by excellent professionals.

I have many strong impressions from various aspects of the course, but what most impressed me was the capacity of the Japanese community to rebuild not only the physical structures but mainly the psychological and social recovery. I respect every lecture I received in this course because many instructors, especially community leaders and volunteers, friendly welcomed us in their community and made a strong effort to share their own experiences from disasters. In many circumstances I could see on their faces signs of sorrow from the disaster, but also I could feel their hopes to teach future generation about preparedness for disaster to save lives.

Definitely, this course provided me not only technical skills to improving my job, but also exposure me to many thoughtful situations that engage me even more on the challenges to Improve Community Based

Disaster Risk Management in my country.

Thank you all for the great opportunity to learn technical skills and also to live a lifetime experience.

私は国際協力機構（JICA）、神戸国際協力交流センター、神戸市消防局の協力によって実施された、この素晴らしい研修に参加でき、とても光栄に思います。研修全体を通し、素晴らしい講師の皆様により、とてもよく構成されました。

私は、研修の様々な面で強い印象を受けましたが、一番印象に残ったことは、「日本では災害からの復興の際に地域のコミュニティがインフラ面の復興だけでなく、主に心理的にも社会的にも回復しようとする能力があることでした。研修の講義・視察はどれも素晴らしいものでした。多くの講師の皆様、特にコミュニティの自主防災組織のリーダーの方々、ボランティアのみなさんは温かく私達を迎えてくださり、ご自身の災害の経験を熱心に共有しようとしてくださいました。私は多くの場面で被災された方々の悲しそうな顔を見ましたが、同時に命を救う為に次世代に防災について伝えようとする希望も感じ取ることが出来ました。

間違いなく、この研修で私は技術的な知識を得ただけでなく、自国のコミュニティ防災をより良くするための多くのヒントを得ました。知識を学ぶ機会、そして、一生に一度の経験をする素晴らしい機会を与えてくださった皆様に感謝いたします。

(以上)



国名：マケドニア共和国
名前：Mr. Gjorgjievski Daniel
所属：危機管理センター 次席補佐

Japan the land of the rising sun, that was the first thing that I have heard about this beautiful country. Being just a little boy in that time, how the time was passing my curiosity was rising up, and I started dreaming one day to visit the "land of the rising sun", so I can experience the culture of the Japanese people, because of the things that I read, I knew that our cultures are very different, so one of the main question was "What kind of people live there?". After many years the that little boy became a man, got employed at the Crisis Management Center building his career in the disaster management, and got the chance to upgrade his knowledge in one of the best countries for Disaster management, and guess what that was Japan, we the Macedonians say "Двојна среќа – Double luck", because from one side I will gain quality knowledge which will help me to too continue developing but from other side experiencing the Japanese culture that was fulfilling of one of my childhood dreams the happiness was enormous,.

After arrival on the airport in Tokyo, I could feel the professionalism of the JICA staff, the welcoming, escorting to the place, with one the organization was flawless. The beginnings of my course for "Community Based Disaster Risk Management (A)" were very interesting, following the lectures for the Japanese culture from old time to modern time, development of the educational system, measures for handling with disasters, lessons learned from the Great Hanshin Awaji

earthquake, establishing of the BOKOMI, to the practical gained knowledge by participating in the drills and activities shoulder to shoulder with the people from the community, until the final phase with conducting field trip where we could see the real situation at the disaster stricken areas through the stories of the survivals. All in all I can not choose which was my favorite lecture but definitely I can say that thanks to the Japanese people, JICA and KIC, I'm going back to my country wealthier with knowledge which I'm sure it will be from huge help in the building of safer community.

It's said that best things are kept for the end, city of Kobe from where to start, I have just superlatives for your city, organization on high level, clean, with a lot of places in which you can enjoy. But one of the things that impressed me the most, is the feeling of being safe something that I have never felt in other foreign country or city, moving alone freely in anytime day or night, but how they say the city is not only the buildings and roads, because that represents the body of the city, but the main segment of the body is the soul, and the soul of one city are the people, so with one word the people of Kobe are one and only, unique story, people that you cannot find everywhere in the world, why I'm saying this because I had the chance to visit and other places in the world but this hospitality is difficult to find, Kobe citizens are wonderful people, friendly, helpful with one word you can feel the mutual respect that they have between each other and of course the respect for the foreigners, for example I will mention one small situation that my colleague from India retell me – The shopkeeper left his shop empty walking with him for 300 m just to show him the place that he was looking for. This is something that hardly you will get in some other country. That's why I will take part with me from this lovely people and culture, but also part of my heart will stay here in Kobe with the Japanese people.

Unfortunately my time to leave this beautiful country and city is coming closer and the time to

explore is shorter and shorter, that's why I will take this opportunity to pass this message to the Japanese people, Macedonia (Македонија) and Japan (Nippon) have one common thing the flags, both of them are the lands of the sun, Japan rising sun, Macedonia shining sun, and that is unbreakable bound because for the sun the to shine has to raise first.

On the end end I want to thank to the JICA and KIC for their excellent organization and hospitality, and of course citizens of Kobe, thank you or благодарам (on Macedonian) for making me feel at home, I wish you health, happiness a lot of love and safe lives.

See you soon, and you are welcomed in my beautiful country Macedonia (Македонија).

I will miss Kobe and my colleagues from the course,



日の昇る場所、日本というのが私が最初に聞いたこの美しい日本についてのことでした。まだ少年でしたが年月が経つにつれて日本に対しての興味がわき、いつか「日の昇る場所」に行き、本で読んだ、私の国の文化とはまったく違った、日本人の文化に触れたいと夢を見始めるようになりました。私が一番知りたかったのは、「どんな人がそこには住んでいるんだろう？」ということでした。年月が経ち、私も大人になり、危機管理センターで働くようになり、知識向上のために災害マネジメントについて学ぶのに最適な国、すなわち、日本に研修に行くチャンスをつかんだのです。マケドニアでは、「ダブルラック (二重の幸運)」と言いますが、業務での知識向上が出来るということと、もう一方では小さい頃からの夢が叶うからです。その喜びは計り知れないものでした。

東京の空港に到着し、私は研修機関の JICA スタッフの温かい出迎へと、目的地までのエスコートに、そのプロ意識を感じました。そして始まった「コミュニティ防災 (A)」研修はとても興味深いものでした。過去から現代に至るまでの日本文化、教育制度、災害対策、阪神・淡路大震災の教訓、BOKOMI (通称、防コミ) の設立から実際の防コミメン

バーとともに肩を並べながら行った訓練によって得た実践的な知識、そして研修終盤には、被災地視察で被災者のお話などを通して被災地の現状を目の当たりにしました。どの講義や視察が一番であったなど選ぶ事の出来ない、すべてにおいて有益な研修でした。それもお世話になった日本の方々、研修機関である JICA、また神戸国際協力交流センターのおかげで、私は自国においてより安全なコミュニティを築いていくのに大きな助けとなる知識を持って帰ります。

何から言ってよいかわかりませんが、神戸は高度な組織があり、そして街は清潔で、楽しめる場所がたくさんある場所です。中でも一番印象の強いものは、他国では感じた事のない、昼夜問わず一人で自由に出歩けるなど、安心感でした。しかし街は建物や道路など軸となるものだけではなく、もっと大事なものは魂・感情であり、それはつまり人ということです。神戸の人々は世界のどこにもいない人々です。私は他国も訪れたことがあります、神戸の人々のフレンドリーで、助け合いの心を持っていて、外国人にも敬意を表するといったおもてなしの心はどこにもなく、とても素晴らしいと思います。同じく研修を受けたインドからの研修員から聞いた話ですが、彼が自分の行きたい場所を探していた時、ある店員が場所を案内してくれるためだけに、店を空けてまで 300m ほど離れたその場所まで一緒に歩いてくれました。これは他の国ではなかなかないことです。

残念なことにこの美しい国を離れ、自分の国 (マケドニア) に戻る時が近づいてきましたが、私がここで日本の方々に伝えておきたいことがあります。マケドニアと日本はお互いの国旗に共通点があります。両方ともに日の丸があるということ、日本は日が昇り、マケドニアは輝く日が描かれています。日が昇り輝くという壊れない絆があるということです。

最後に、JICA と神戸国際協力交流センターのすばらしい組織力とおもてなし、また神戸市民の方々にも、居心地よく過ごせたことに感謝するとともに、みなさまのご健康とご多幸と安全を祈っております。 (以上)

